

## 簡易ベンチの花き栽培への利用

第1報 ベンチの形状と培土量がシュッコンカスミソウの生育と開花に及ぼす影響

郡司定雄・富山一男 (宮崎県総合農業試験場畑作園芸支場)

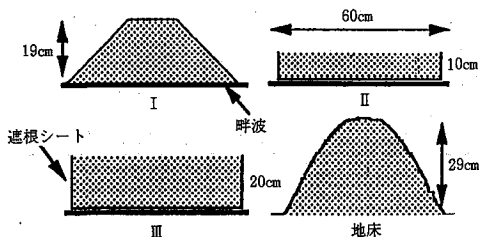
Sadao GUNJI and Kazuo TOMIYAMA: Application of Simple Bench on Cut Flower Cultivation

1. Effects of soil Bulk, Type of Simple Bench on Growth and Flowering of *Gypsophila paniculata* L

保水力の大きい火山灰土壌においては、土壤水分の制御が難しく、シュッコンカスミソウやスターチス等のように土壤水分の制御によって良品生産を行う花き栽培には不適地と言われている。そこで高台の火山灰土壌畑地帯へのシュッコンカスミソウの導入を目的に土壤水分制御の容易な簡易ベンチ栽培について検討した。

## 1. 試験方法

間口6m, 奥行き13.5mのビニルハウス(黒色火山灰土)において耕起後均平にならした後、畦になる部分に幅60cmの畔波シートをハウスの縦方向に4条敷き通路部分に基肥を散布し、管理機を用いて畦波シート上に耕土をはね上げ高さ19cmとした簡易ベンチI区(土量:16リットル/株)及び畔波シート上に遮根シートを敷いて前述の手順で耕土を盛り、側面を遮根シートで支えて厚さ10cmに均平とした簡易ベンチII区(土量:15リットル/株)、同様に20cmとした簡易ベンチIII区(土量:30リットル/株)を設けて地床区と比較した。供試品種はプリストフェアリー、鉢上げ後15日のポット苗を1992年9月25日に株間25cmの1条植とし、定植3日目に摘心した。施肥量は、a当たりN2.0, K<sub>2</sub>O 2.0, P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> 2.0kgを全量基肥として施用した。かん水は畦中央深さ10cmのPF値を基に点滴チューブで行った(第1図)。



第1図 簡易ベンチ各試験区の形状(断面図)

## 2. 結果及び考察

かん水は生育ステージによって変え、定植から節間伸長期はP F1.8~2.4(9/25~11/18=P F1.8, 11/19~12/6=P F2.2~2.4)、発蕾から開花期(12/7~1/31)はP F2.7~2.8をかん水開始点とした。なお、地床区は後半全くかん水を必要としなかった(第1表)。

各区の生育は、地床区が後半を無かん水としたにもかかわらず根群分布が深く生育旺盛となり、黒ボク土における土壤水分管理の難しさがうかがわれた。これに対して簡易ベンチの各区は生育初期はやや軟弱な生育を呈したが、かん水を控えた後半はしまった生育を示した。

開花始めは、簡易ベンチの各区が1月上旬であったのに対して、地床区は1月中旬1旬の遅れがみられた。

切花重、切花長は、簡易ベンチ区がいずれも小さく、地床区に比べてボリューム感がやや劣った。簡易ベンチ間では培土量の多い簡易ベンチIII区が他の2区に比べて大きい切花が得られた。ほぼ同量の培土量のI区とII区の比較では畦面の広いII区がやや大きい切花が得られた。

花茎の硬さは、地床区が軟弱であったのに対して、簡易ベンチ区はいずれもしまった硬い切花が得られた(第2表)。

以上の結果、総合的にみて、簡易ベンチIII区が最も良質な切花生産が可能であるが、ベンチ構造の最も簡易な簡易ベンチI区でも切花のボリュームは若干劣るものの、低コストで省力的なベンチ栽培法として実用化が可能と考えられる。

第1表 時期別日平均かん水量(ℓ/株)

区名	定植～節間伸長期	発蕾～開花期
簡易ベンチI	0.246	0.213
簡易ベンチII	0.208	0.158
簡易ベンチIII	0.292	0.240
地床	0.542	0.0

第2表 時期別切花本数及び切花形質

区分	時期別切花本数(本/株)				切花形質					
	1上	1中	1下	計	切花重(g)	切花重(cm)	茎長(cm)	茎径(mm)	下垂度(度)	枝長(cm)
簡易ベンチI	2.2	1.7	1.3	5.2	69.2	116.7	95.2	3.9	13.0	39.3
簡易ベンチII	2.1	2.5	0.7	5.3	79.7	125.8	104.8	4.1	12.7	37.7
簡易ベンチIII	2.5	2.7	0.7	5.9	82.5	126.1	103.1	4.2	14.0	41.2
地床	0	2.2	2.8	5.0	180.3	128.8	98.4	4.4	23.8	47.0

- 注) a) 茎長: 主径から1対そろって分岐した節から切花基部までの長さ  
 b) 茎径: 主径から1対そろって分岐した節から下方6節と7節の間を測定  
 c) 下垂度: 切花を水平にし、先端から70cm下方を支点にして先端の垂れた角度  
 d) 枝長: 主径から1対そろって分岐した節から下方4節目の枝長